HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会学 ： 昭和28年度特殊講義案 第4巻 第2号Ａ冊
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市の青年層、都市の社会成層、都市内の焦点群落、都市住民住宅の法形式。
Issue Date	1953
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77407
Type	manuscript
File Information	N006_01AS28.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

Fine
W.M.CO.LTD
TRADE MARK

FINE
A

SUPERIOR NOTEBOOK
MADE FROM FINEST PAPER

都市社会学

二十八年度
特殊講義案
第四巻第三号
A冊

都市の青年層
都市の社会成層
都市内の商店群落
都市住民住居の諸形式

一、都市の青年層

二、都市の社会成層

都市内の商店群落

三、都市住民の生活の諸形式

都市の青年學

一、（都市）人口統計は青年層実在

∨ 二、（都市）職場人口構成（は異ル実山）、中小商工業従業人口数

∨ ~~三~~

四 三、於界各人口構成中青年は對ルる

五 四、映画館入場者は主として青年

六 五、其他都市の公共施設利用者

七 六、（都市）文化消費者は主として青年

八 七、~~犯~~（少年）犯罪

九 八、住居（独身と結婚と）（下宿と世帯と）

十 九、青年の集団（労働組合。生活拡充集団。）（地区集団は老人中心。）

十一 十、青年の進歩性と都市の革命性

十二 十一、（都市）群集と青年

十三 十二、都市青年は地方青年か

十四 十三、都市は青年の生活の場で

筆者註
「都市青年団に関する
第二回京都地方調査報告
を参照のこと」

八　都市の青年層

ここに都市の青年層とよぶのは、それが一つの全体として何等かの意識ある社会的統一形を成しているものではなく、[illegible]の地域的集団をなすものではない。人口の年齢構成における特定年齢階層として生ずるのにすぎない。都市における諸種の~~集団~~社会的活動を年齢階層に整理して見た時、特定年齢階層として青年層が浮び出て来るからでしかない。~~[illegible]~~近代都市は青年層と特殊な関連をもって居ると思はれる。

都市の人口構成においては青年層が膨大して[redacted]ち豊かな人口構成においては青年

△即ち人口構成において都市が村落と異るのは青年層の部分において大である。都市をして都市的たらしめて居るこの人口構成における青年層の膨大の事実が之れ丈の事実に止まる筈がなつては意無である。

層が増加を示して居ることは一般に知られて居ることである。△この事実で都市の社会生活における青年のしめて居る領域の大であることが分るが、事実は比較以上に都市は青年の活動の場所となつて居る。

都市における生産活動人口における青年のしめる領域は可成多大であり消費活動人口における青年の領域も実に大である。ところで都市においては此の人口構成において青年が特に膨大して居る~~大~~ように生産においても消費においても都市は活動的である。

この様にして今日郊外の青年には主として其の勢力圏内の地方より集まって来るのである。それは労働青年か結婚青年か勤務青年~~或~~か中学生青年と云ふ形で地方より集まって来るのである。此四つの青年の型は相互に異って居る。私等は都市の青年について考へる時は常に此四つの型の生活を考へてはならぬ。

都市の生産が如何に多く青年層の力に負って居るかを示す好適統計の数は沢山あるであらうが、都市の消費生活が如何に多く青年層を対象として居る

かも研究と教官会とをえくなかった。
映画館に於ける地帯がえとして青年である
とは誰れ認めるところであるが三十を越して
者は見あたらない。然し学生映画研究
や理論家が存在する人々の意識作の発達によれば
映画を専攻する者の大部分は十代又は二十
才位の若者である。製作もそれを主に
とした事であった。ある作家が作
るを読む年齢層が青年であるから
作るもその積りで書くと述べて居る。
随筆を読んだ事がある。
カフェーや喫茶店の客はほとんど青年のものである

うか。高級な料亭は老人達の会集するところであり、パチンコ屋・競馬場や競輪場はいかがですか。こんな都市的な種々の娯楽施設の各々について調査する必要がある。図書館、音楽会等についても然り。恐らくそれらの殆んどの大数のものが殆大部分が青年層によって利用されているであろう。

都市に於ける集団の中世帯は全年齢階層であるが、これとて都市の一つの会合は青年群が多いであろう。職場は全年齢階層を含めるが、その労働組合は青年中心の

ている。生活協同集団は明らかに違も
のようである。只世帯集団の方は[illegible]として
世帯を単位としてみるので青年にはない。
これの方が小青年的である。
都市に構成された人の色々の形の群
集も青年を主とするとみるか、
また固定した形をもたない。
都市の青年は其の大数のものは家族
と共に同一世帯を営んでいるが他は皆他
の家族と世帯を共にするか準世帯に住
んでおり、準世帯及び他の家族の中に生
きる生活が落ついた生活でないか。

都市と青年團が生まれて

それ等の青年は住居以外の娯楽を要求
に向かふ何者は当然である。都市の娯
楽機関が最も多く青年によって利用
されるのは青年が倦怠に陥ってゐるな
い情にあるがためにあらず私の壮年にな
り未婚の者は是非とに於いて若年に
近づけば其の好奇の様がれないと思知
られる。

其の娯楽に属もつ知ない事がある者
年が過当的であるのは当然である。青
年は宴会を好み華麗を好む。よくも
あしくも都市と其の文化を根底として

るのは青年である。即ちは、この意味で
革命的な礎地を本質的にして作りあげる主体
である。

10　都市の社会成層

一、昼夜人口と職業

一、職業の成層

一、学歴と勤続年数による職階

一、収入と生活水準と文化水準

一、階級対立の二形

一、労資区劃の一線

一、職域社会間の関係

一、都市の発展と階級斗争

二、二つの陣営

宗教の教派には都市には
ヒーラーがあります、そのリテノが停止する

成層の意味の諸点を、社会学辞典 12頁 P52 第四一

ソローキンの社会成層
日本社会学会の社会学代表的著者（著者）

社会的空間の範囲を指示し社会的空間に於ける人々又は人工の（や社会的事物の）社会的区画、社会的流動について分析へる場合（差別は）~~垂直~~水平的な社会的（一部）類型と考へる垂直的な上下的社会成層が~~考へられ~~（考察されて居る）（垂直的社会成層の問題は）（個人の上昇と下降、集団の上昇下降）（社会的事物の上昇下降が問題である。）~~わけなのであります。~~

比喩へは社会的位置を視定する上に（たとへば）便宜である。

本節では都市に於ける社会成層一般と共に都市に於ける社会成層の一つの現はれである都市青年層及び都市の社会成層の系列の外にあると思はれる黒帆先生職業層について考察して見たい

第二節

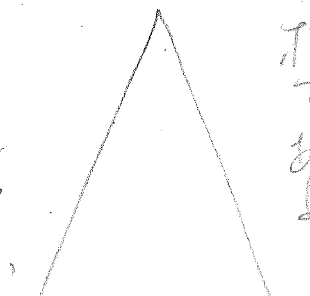
都市の社会成層

都市の人々には職域か学校に所属し一日の主要な時を職域か学校に於いて過して居ると云ふ事が出来ます。然らば若し都市の社会成層を掲（かかげらる）とすれば其れは職域或は学校に無関係である筈はない。職域毎に其の内部に成層があるが其は職域・相互の間に成層の関係があるか。至大な問題である。学歴についても学である。学歴は其の問題については全く同の外にあると思はれるので社会成層は全く職域社会に関係するものと思はれる。

明らかに職場内部には成層がある。然しそれが直ちに都市に於ける社会成層であるか。職位相互の間にも階層の上下が認められる。その関係は何であるか。

都市に於ける各種の職場には何れも成文的又は非成文的に定まった職階の制度がある。職階は主として勤務年数の基礎の上に定まって居るのであるが更に上層部の人々の縁故の関係による場合もある。職階の上昇と共に収入が増大し下層の人に対し統制指導支配の権~~協作業~~の範囲が増し力が加はる

収入の増加と共に生活水準が高くなり。益々富を増し権力が加はる。多くの職場に於ける職員の職階を人数ピラミッドの様に図示すると上昇する程に人員が少い。然しそこでは最下層の人員数は最も多数となるのではない。即ち次の様である。



上昇すると共に少数となる割合は職域によりて一定してはゐない。職域に於ける職階の関係は右の如く大体

にピラミッド的であるが、一つの職域が労働争議の突風の中にのった場合は此ピラミッドは上下の二つの~~■~~陣営に完全に分裂し対立する。 その分裂の一線が何処である。一線の上は資本家側となり一線の下は労働者側となる。 然らばこの一線は何を基準として決まって居るか。今度は製麻會社の場合について考へて見る。

（ここに帝国製麻の例挿入）

この一線は収入の階層によって分れて居るのではなく職務の別によって引かれて居る。

職階別においては収入の階層と職務又

権力の階層が完全に一致してゐるのでない

事が多い。即ち収入は高くとも職務と

しては被支配的である場合がある。

ピラミッド図形の下より上に向ふ場合あ

る先に来て突如として~~出~~対立する二階層の

上部にかけり（下部）~~下~~部と対立する図似に

なる。二つの陣営は烈しく擯斥する側

と擯斥される側の対立であ~~本来~~る

と云へるではあらうが、実対立としみる

のはしかく単純ではないこ~~本来~~権一方の

側は擯斥する側であるが、擯斥する

人自身は対立の血しぶきの外に

日本紡績・金属製鉄の
争議における組合

本業に就って居るのに事業採用されて居る人が採用する人のみに共同して居る場合（自分の味方として居る）もう一つ種である。

一人の資本家が千人の労働者を雇ふる事はない。千人の労働者の中何人かが一人の資本家を助けるからである。

抗争における職場内の階層の関係は争ったが、一職場相互の階層の関係が同じである。一つの職場の上層が他の職場の中層に等しい場合がある。職場間のかくの如き関係は労勤続年数か収入等を吟味する事によって

或る程度迄は各人の位置の上下を判断することが出来る。[illegible]此の調査の一環として我々はこれを本方大阪市における階層上下判定調査は職階の上下関係に対して一つの判定資料となるものである。（[illegible]）都市における各階層は各様の色として各職域における職階に附着して居るのであって、職域相互の上下の関係は不變的における評価も予想するのであるが、各人の勤続年数と収入とを考察することによって大体の傾向を知ろう

が出来るであらうか　即ち高い学歴をもち長年勤続した人が高い~~地位~~資格階層にあるとは一般的傾向は認めざるを得ない。然し人の希望には甲乙があり運不運があり又都市の出世街道には色々の悪意も存するので右の事例が多くつれて居る結合も甚しいのであらう。

前者は同じにしたいのは何れの職域にも先にのべた二つの上下二階層部の対立抗争の関係が認められ此の傾向は年と共にはげしくなりつゝ

ますと共に経済の領域に於ても二階層の対立は階層的に横に深まりさながら都市に於ける職域が一団となって二つの階層に分れ対立して居る様に見られるのである。其の横の溝まるが深い為にさながら都市の人々が二つの陣営に分れて対立して居る様にさへ見えるのである。其の対立は元来都市に本質的なものであるとは見られなかったが、都市の近代化と共に急にして其傾向は甚しくて行く有様である。

5 都市内の商店群落

都市の中心には中心街が在り、全市に亘って第二次的繁華街が幾つか、點在し、その間隙に第三次繁華街が其々點在し その又間隙に第四次繁華街が存在しかくの如くにして最後の第何次目かの繁華街又は非孤立商店が全市内の何れの何處について云ふも其の一二丁目以内にある程に隈なく大中小の商店所在地が在る市内行きとどくと云ふ様な形式が考へられないではなく。事實に於ては一の形式は[redacted]、見えない程混亂してゐる

と思はれるが、然しこんな極左的な形式が
秩序を混乱せしむる諸條件の存する社会
の姿の底には存して居るものと見られる。
今日集団が全く同大の位置の外には
二国家民族に配置されて居るならぬの
る勢力の為に押へられながら市内
の各所に大きな町工場もあり大邸宅も
あり労働者が官庁や会社などと隣接
して配置されて居るので、工場住居の大多数
も異る生活水準も異へ得るから生活の
へれ様な労働者がかうして社会には
甚しく混乱せざるを得ない、けれども市内

に住みながら半里位も行かなければ、ある品も買（全く欲しい品に）へない様なところ又オフィス街のまん中には五丁であらうが、一般には二三丁も行けば八百屋も菓子もあるのが常です。

ですから市内居住の消費者の立場からも此の様な商店配置の不均が多いと云いねよ。

市内や居住の一般消費者から云へば、二三丁の以内に日に日に必ず消費する野菜や牛乳の店があり五六丁以内に少し高級な日用品や被服を買ふ店があることは大きな商店街となつて居る十丁以内に於ては

は都市大きな商店街があってそこに
は色々の商品が求めらる外に雑踏の中
れしまったが目新しい商品をさがした
り安価な娯楽施設に雰気を心を安らし
することもある。
都市の規模によって　その自体にある大きな
商店街が全市の中心街である場合も
ある。その商中心に幾つかの中心街がある
場合もある。　自分の住居から二三丁以内の
商店街から遠く近くに色んの商店街
を通して全市の中心街に達する回路や
序は住宅には種々である相違があ

無し右の如く時代を考へるならば無[illegible]
であらう。
これは現在からサーヒスセントしたもの新世を数へた所は全
く困難である。併しこの殊に高等学者は研究が最も日常
的な仕事の為に出掛ける遠所行。一方日に
一為位出掛ける回会所、半歳に一度出掛
ける。中新世、対該の日併って出掛ける
中新世何年に一度出掛ける大新世
との関係と関係である。併しこの研究が
云へば其の始まり高所より大新世に於
る関係は時期的問題が起くなって行く時
年を要して居る者に並ぶ元の区画なり

遠方に遠くなって行く性質である。都市に於ける一般市民（企業に於ける）サービスをするものに関係[illegible]して行く性質も大きく同一である。

都市に於ける最終目的はサービスやむしろは恐らく人口力が要点であろう。従来は人口の要素が一番要点りの居住人口の都市の中心より遠ざかってある。今都市は益々クモの形の如く拡大して行くのは此二つの要素であるが例へば、デパートが如何に強大となっても小商店は存続しうる可能性

前も多くもつてゐるし民二の職業であ
る。
住民集合地としての都市に職能が流
入して都市は近代化し多くの職能を生
み其の為に様々の変化を要求してゐるが、
生活する為よりも前進せんのは一面合理
的である。故に民二の職業は
経済の統一化に努めつゝ何等の障害面
なくして最も新しい近代的である様
ある。
民二職業は各都市の要望に於いても
人口増加に最も数多く都会化するが為

の日常生活の実際について見ても一日も欠くべからざるものは衣食住である。住居の変化や修繕は幾年に一度毎に必要と云ふ譯ではない。然して日に必要ではないと云ふも一日も欠く事は出来ぬが、これとて衣の洗濯や修繕が毎日必要とされるのではなくて食程ではないとしても大きくとも日毎に必要ではない。これに対して食は毎日必要である。食の中でも主食は財力によつては粗末に済ますこともあらうが、副食物としての野菜は全く日毎に要求する必要のあるものである。副食物で

嗜好や情緒は日毎に変ずるを任意とする
あつてはならぬけれども見と同じ職業
とは生活の上下の如何に拘らず無い
おそらく躊躇することを停止するようである。
いろいろと気分があり、錯乱の階級の段階的に
多数に存する所以である。
第二に至箇所は日本封建時代の庶民
の間に親しまれた職業であつたかどうかは比すべき
とせられなかつた。けれども八百屋は
店を構へとしない時代は近世頃にも
あつてはなかつた。この封建時代の過去をして
て二つの職業は都市の近代化の流
の中へいくとしなかつた様である。

A 普通世帯
1 家族＝世帯
2 家族＜世帯（[illegible]）
3 家族＞世帯（[illegible]）

B 準世帯
- 寄宿舎
  - 学校、職域、
  - 個人宅、宗教関係
- 下宿屋　営利企業
- 配定
  - 素人下宿　家族副業、[illegible]
  - 一人世帯
  - 住込従業員　職場、協力者、手伝と同居
  - 下女、下男

C 集合世帯
- 配布
- アパート
  - 職場
  - 貸室企業
- 長屋
  - 職場
  - 貸家企業
- 社宅　職場

結論
1 居住に対する職場の支配の増大
2 居住専門業者の増加専門化
3 縁故関係同居人の減少
4 生活の合同化

---

8 都市住民の居住の諸形式

1 居住者の営業
- 旅館、居住のサービス
- 下宿屋　居住のサービス
- アパート　家屋のサービス
- 長屋、家屋のサービス
- 貸室、住居のサービス

2 土地所有者の営業　土地の代理業

3 大資本家が新たな居住様式
- 寄宿舎、独身寮、
- クラブ（寮）派閥
- 長屋、社宅

4 手工業体の場合
- 住込
- 素人下宿
- 下宿屋

c

縁故居住
素人下宿、同居人（学生）
住込従弟
下女下男 （有業）

大[illegible]事業係所居住　主として職員寮
小事業係所居住　〃 住込
自営者　〃 下宿
学生　〃 寄宿舎

有配偶者　集合又は独立生活
無配偶者　主として集合生活

有配偶者 ― 集合住宅
散居住宅

1 都市青年が集合生活から家庭へ行く傾向。

2 職域と居住の合致の諸段階

3 同居同町村異居異町村の諸段階

同居同財　純宗族

同居異財　同居人有宗族

異居同財　職務か遊学のために子孫他に有る場合

異居異財、　独立宗族

1. 尊長の中に居住する場合　同一字内

2 同一屋敷内に尊長と住居を別にした場合　[illegible]

3 尊長と住居を異にし字も異にする場合

a 宗族の全員が家業に従事する場合

b 主人と宗族の一部が家業へ従事する場合

c 主人のみが従事する場合

d 他人に経営せしめ収益のみ取得する場合

1 主人と使用人と同居する場合

2 主人と使用人と異居するも主人の支配する家に居住する場合

3 主人と使用人と異居し使用人は自己に居所を求めて居る場合

自由平等化の方向に変じ来て主義経営は使用人の居住まで拘束し江戸宅街に地域集団を形成せしめるまでの進みつゝあるを意味するものの様である

現代大都市においてはマンションなども他人の自由を無視したものであるが反面も漸く共同的な組織の中から生れつゝある状態である。

「昭和二十五年[illegible]現在常住人口
調査区人口移動の中心
普通世帯
準世帯
の数について推定す

大分県国勢[illegible]
参考「[illegible]準世帯についての調査
研究」

調査員体験によれば住込みの
経営者や女中は、なるべく普通世帯
の中に含まれ易く[illegible]
に世帯主は大体世帯員と見做し
の外にやる世帯の経営者や女中も有る。
之れを明らかにする為には[illegible]を少し[illegible]
する必要あり。

準世帯

1、寄宿舎

2、雇人下宿

3、素人下宿（従兄弟

下女、下男）一人世帯

（但場合には従兄弟と下女は普通

世帯の内に入（入れる）（含まを

手帰ふかそれかいこ右はつて所なぬ

大谷氏等の調査の結果によれば

札幌全世帯68,985の内普通世帯

63,123 準世帯5,862 即ち1割位が準世帯。

調査地は札幌大通地区で

北一條から南三條まで西8丁目から

西19丁目まで、所謂第1区にて

人口二一、五五二 世帯数二、五五五の

ところ。

調査結果によれば

1、寄宿舎、寮、合宿所は

12から1,200万の477人

2 雇人下宿 六 60万 100人

3、素人下宿 其他 一八四件
（但人的な準世帯）

右の内3素人下宿其他は次の
（但人的な準世帯）

他人的に準世帯を構成して居るものとは一人で住居を有し、生計を立てて居る者と、他世帯に寄寓してゐる人が居るものとである。

如き内容を有つ

~~住居~~

	一住宅に一人生活するもの		他世帯に一人同居		他世帯に二人同居			他世帯に三人以上同居			計
	m	f	m	f	m	f	夫婦	m	f	夫婦	[illegible]
事例	22	24	47	44	3	5	3	3	3	1	155
人数（含世帯主）	22	24	47	44	6	10	6	12	10	3	184人

「同居人は強いて同居して居世帯の中心に含まれない。従って女中や家の子、雇人も含まれぬ。

右の三種について年齢層を比べると満18才より30才までの青年層は/の寄宿舎では89.1%且下宿では62.0%、3ま人で宿を借っては49%と在同居人と云ふのは~~本子数以下常在他は~~位良好係率では「同居人」「使用人」「家の使用人」となつてゐる。職業はこの中に書かぬ人等は職人、見習、店員、学生の徒。三の範疇6585人で、内18才―30才が317人で62.6%、然し15才―18才が相当多い。故に15才―30才を見ると81.1%となる。今一括して表示すれば左の表の如し

	総人数	青年層		総人数に対する割合		性別人数	
		18才－30才	15才－30才	18才－30才	15才－30才	男	女
1. 寄宿舎	477人	428人	442	69.7%	92.7	119人	358人
2 玄人下宿	100	82人	90	82.0	90.0	97	3
3 素人下宿 住込、女中、 一人世帯	184	91	91	49.0	49.0	91	93
計	761	601	623	78.8	81.8	307	454
同居人	585	367	479	62.8	81.1	361	224